

『隠す』 作：ポチ子

『隠す』 作：ポチ子

私の過去には罪がある。

赤信号の横断歩道を、

無視して渡ったこと。

ゴミを分別せず、

そのまま捨てたこと。

名前も覚えてない年下の子を、

イジメていたこと。

言わなければバレない。

目立たなければ、

一生隠すことができる。

だから私は、

黙って大人しくするのだ。

じゃあ、あの人はどうだろう。

あの人も同じように、

過去に罪があるはずだ。

なのに、どうして声をあげているのか。

その声は正義の声ばかり。

きつとあれは贖罪だ。

馬鹿だな。

『隠す』 作：ポチ子

そんなことをしても、

罪が消えることなんかはないのに。

— 終わり —